

Ⅱ 作物別作付(栽培)面積

1 水陸稲(子実用)

(1) 水 稲

平成24年産水稲(子実用)の作付面積は157万9,000haで、前年産に比べて5,000ha増加した。(表7)

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している。(図4)

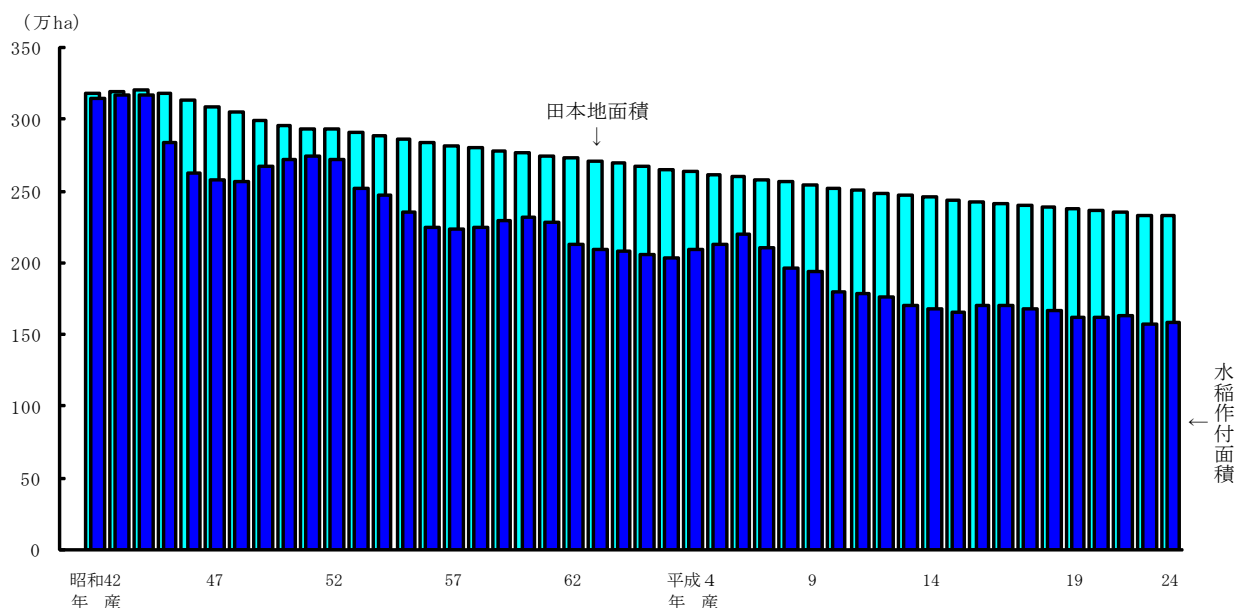
(2) 陸 稲

平成24年産陸稲の作付面積は2,110haで、前年産に比べて260ha(11%)減少した。(表7)

表7 平成24年産水陸稲(子実用)作付面積(全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,581,000	5,000	100	1,579,000	5,000	100	2,110	△ 260	89
北 海 道	112,000	△ 900	99	112,000	△ 900	99	-	-	nc
都 府 県	1,469,000	6,000	100	1,467,000	6,000	100	2,110	△ 260	89
東 北	396,700	7,700	102	396,700	7,700	102	x	x	x
北 陸	209,400	600	100	209,400	600	100	3	0	100
関東・東山	297,600	△ 400	100	295,500	△ 100	100	2,080	△ 250	89
東 海	101,900	△ 500	100	101,900	△ 500	100	x	x	x
近 畿	109,100	△ 200	100	109,100	△ 200	100	x	x	x
中 国	114,700	△ 400	100	114,700	△ 400	100	-	-	nc
四 国	55,800	△ 400	99	55,800	△ 400	99	x	x	x
九 州	183,300	△ 200	100	183,300	△ 200	100	x	x	x
沖 縄	919	△ 2	100	919	△ 2	100	-	-	nc

図4 水稲(子実用)作付面積の推移



2 麦 類（子実用）

(1) 4 麦計

平成24年産4麦の作付面積（子実用）は26万9,500haで、前年産に比べて2,200ha（1%）減少した。（表8）

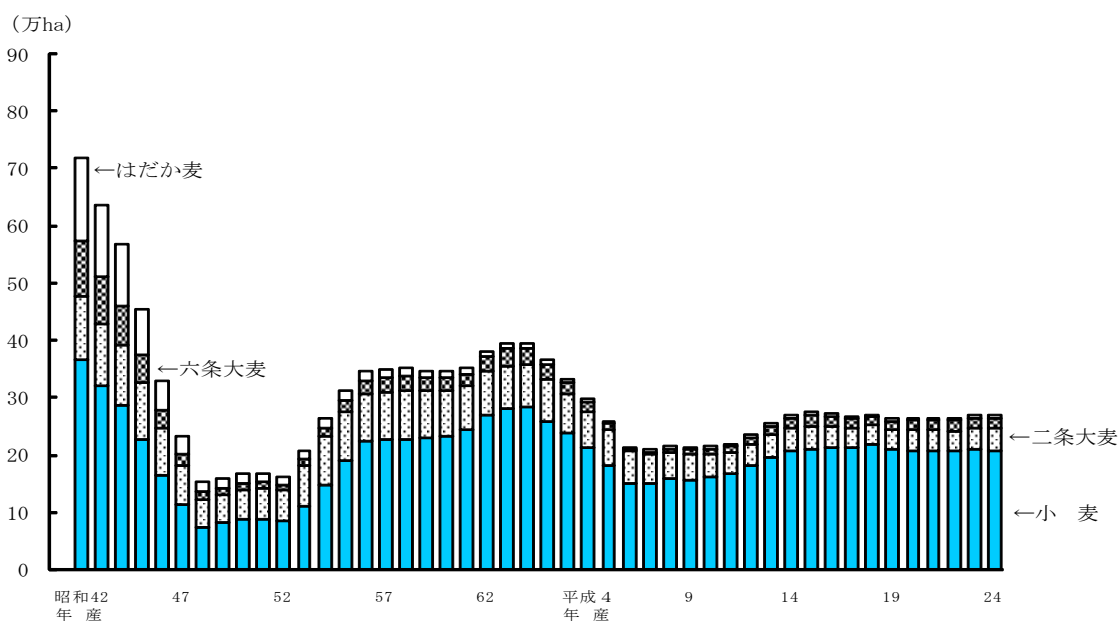
麦種別には、二条大麦は前年産に比べて700ha（2%）増加したものの、小麦、六条大麦及びはだか麦は前年産に比べてそれぞれ2,300ha（1%）、300ha（2%）、160ha（3%）減少した。

作付面積の動向をみると、昭和40年代は作付農家数の減少や水田裏作の減少等により年々大幅な減少を続け、48年には15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたことや米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。2年以降は作柄が不安定なことや水田裏作の減少等により再び減少し、7年には21万200haとなった。8年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、14年以降はほぼ横ばいとなっている。（図5）

表8 平成24年産4麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面積	前年産との比較		作 付 面積	前年産との比較		作 付 面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	269,500	△ 2,200	99	168,300	△ 2,300	99	101,300	200	100
小 麦	209,200	△ 2,300	99	113,200	△ 2,600	98	96,000	300	100
二条大麦	38,300	700	102	34,800	600	102	3,460	50	101
六条大麦	17,100	△ 300	98	15,400	△ 200	99	1,690	△ 100	94
はだか麦	4,970	△ 160	97	4,840	△ 110	98	130	△ 48	73

図5 4麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

小麦の作付面積は20万9,200haで、前年産に比べて2,300ha（1%）減少した。（表9）
このうち、北海道は11万9,200haで、前年産並みであった。

一方、都府県は9万100haで、近年作柄が悪かったこと等から他作物（二条大麦等）への
転換等により、前年産に比べて2,200ha（2%）減少した。

イ 二条大麦

二条大麦の作付面積は3万8,300haで、前年産に比べて700ha（2%）増加した。（表9）

このうち、北海道は1,990haで、小麦への転換等により前年産に比べて40ha（2%）
減少した。

一方、都府県は3万6,300haで、近年作柄の悪かった小麦からの転換等により、前年
産に比べて700ha（2%）増加した。

ウ 六条大麦

六条大麦の作付面積は1万7,100haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。（表9）

これは、北陸地域で大豆等からの転換により増加したものの、東北及び関東・東山地域に
おいて他作物への転換等があったためである。

エ はだか麦

はだか麦の作付面積は4,970haで、前年産に比べて160ha（3%）減少した。（表9）

これは、九州の一部地域において周期的な降雨の影響により、は種を断念したため
である。

表9 平成24年産4麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

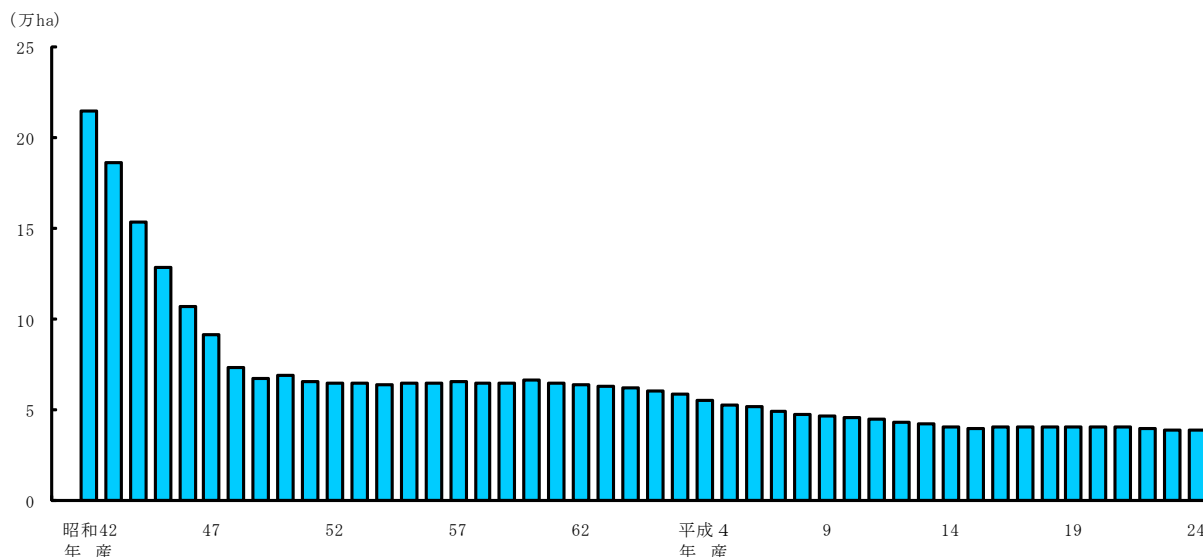
全 国 農 業 地 域	4麦計			小 麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	269,500	△ 2,200	99	209,200	△ 2,300	99	38,300	700	102	17,100	△ 300	98	4,970	△ 160	97
北 海 道	121,200	0	100	119,200	0	100	1,990	△ 40	98	-	-	nc	-	-	nc
都 府 県	148,400	△ 2,000	99	90,100	△ 2,200	98	36,300	700	102	17,100	△ 300	98	4,970	△ 160	97
東 北	8,490	△ 1,020	89	7,520	△ 590	93	3	△ 5	38	963	△ 437	69	-	-	nc
北 陸	9,940	250	103	163	x	x	8	△ 1	89	9,770	240	103	-	-	nc
関 東・東 山	39,900	△ 300	99	21,500	△ 200	99	13,400	0	100	4,890	△ 190	96	80	△ 21	79
東 海	15,400	△ 200	99	14,800	△ 200	99	x	x	x	580	14	102	4	0	100
近 畿	10,200	△ 300	97	9,060	△ 290	97	185	x	x	754	x	x	x	x	x
中 国	4,690	60	101	1,550	80	105	2,640	△ 60	98	x	x	x	403	x	112
四 国	4,390	△ 90	98	1,800	△ 90	95	x	x	x	-	-	nc	2,570	0	100
九 州	55,400	△ 400	99	33,700	△ 900	97	20,000	700	104	3	3	nc	1,710	△ 170	91
沖 縄	11	x	x	11	3	138	-	x	x	-	-	nc	-	-	nc

3 かんしょ

平成24年産かんしょの作付面積は3万8,800haで、前年産並みとなった。

作付面積の動向をみると、昭和40年代はかんしょでん粉の需要低下や価格の低下等により大幅に減少し、その後は漸減傾向で推移している。(図6)

図6 かんしょ作付面積の推移



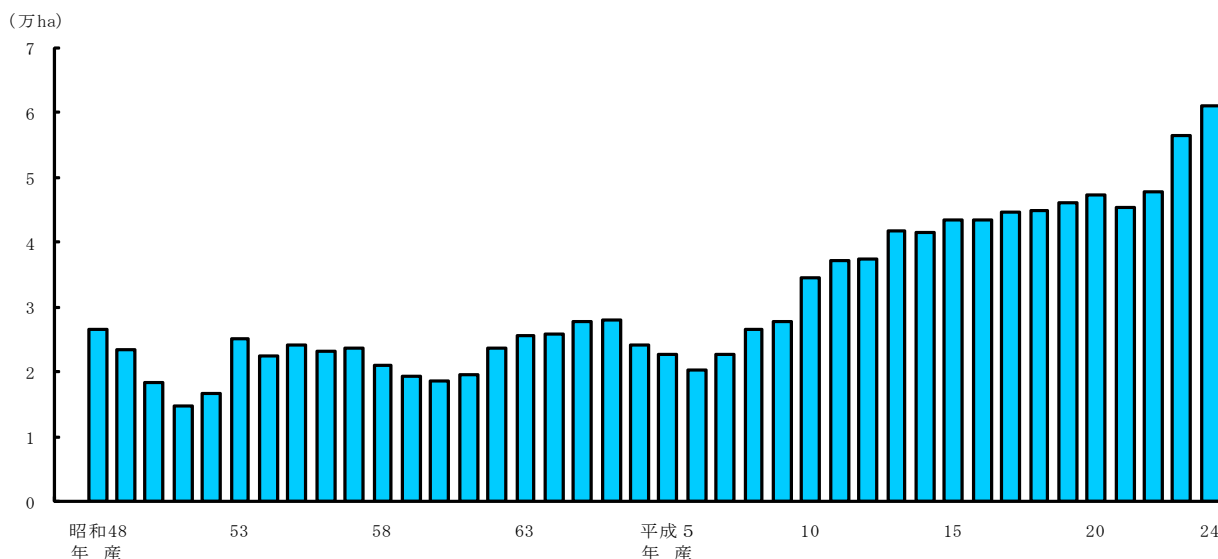
4 そば(乾燥子実)

平成24年産そばの作付面積は6万1,000haで、前年産に比べ4,600ha(8%)増加した。

これは、他作物からの転換や不作付地への作付けによる増加等があったためである。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4~6年は減少したものの、7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している。(図7)

図7 そば(乾燥子実)作付面積の推移



5 豆 類（乾燥子実）

(1) 大 豆

平成24年産大豆の作付面積は13万1,100haで、前年産に比べて5,600ha（4％）減少した。

（表10）

これは、北海道では作付けが増加したものの、他の農業地域では他作物への転換等により減少したためである。

作付面積の動向をみると、昭和40年代は外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移した。その後、53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加したものの、63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。7年から15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移していたが、16年以降は上下動のある動きとなっている。（図8）

(2) 小 豆

平成24年産小豆の作付面積は3万700haで、前年産並みとなった。（表10）

このうち、全国の約8割を占める北海道の作付面積は2万4,400haで、前年産に比べて600ha（3％）増加した。

(3) いんげん

平成24年産いんげんの作付面積は9,650haで、前年産に比べて550ha（5％）減少した。（表10）

このうち、全国の約9割を占める北海道の作付面積は8,870haで、前年産に比べて460ha（5％）減少した。

(4) らっかせい

平成24年産らっかせいの作付面積は7,180haで、前年産に比べて260ha（3％）減少した。

（表10）

このうち、全国の約8割を占める千葉県の作付面積は5,450haで、前年産に比べて130ha（2％）減少した。

図8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移

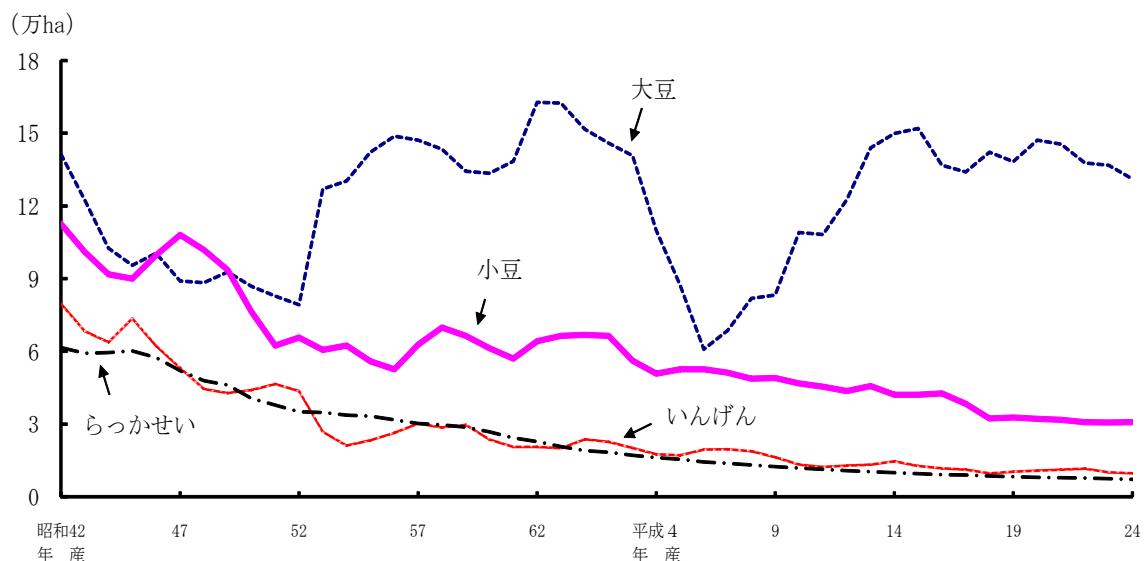


表10 平成24年産豆類（乾燥子実）作付面積

区 分	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
大 豆	131,100	△ 5,600	96	111,500	△ 5,700	95	19,600	100	101
小 豆	30,700	100	100	5,290	△ 470	92	25,500	600	102
いんげん	9,650	△ 550	95	404	△ 19	96	9,250	△ 510	95
らっかせい	7,180	△ 260	97	142	△ 28	84	7,040	△ 230	97

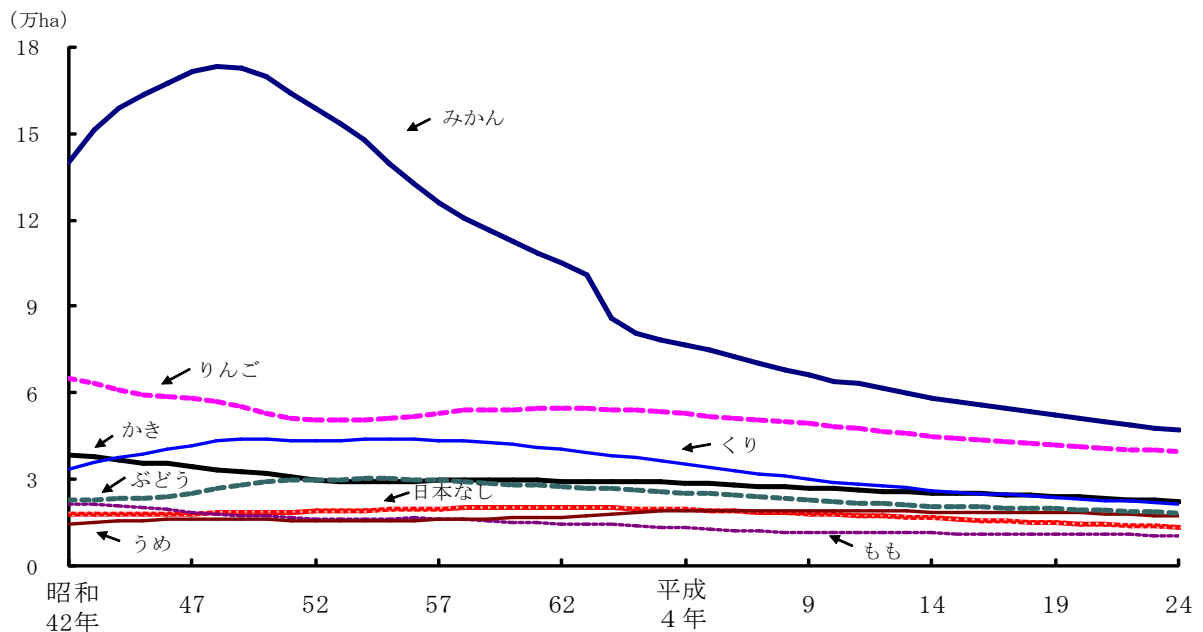
6 果 樹

平成24年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは4万7,200ha、りんごは3万9,700ha、かきは2万2,600ha、くりは2万1,700haで、前年に比べてそれぞれ800ha（2%）、400ha（1%）、400ha（2%）、400ha（2%）減少した。（表11）

表11 平成24年果樹栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較		区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比			対 差	対 比
	ha	ha	%		ha	ha	%
み かん	47,200	△ 800	98	す も も	3,150	△ 10	100
その他かんきつ類	27,700	△ 300	99	お う と う	4,840	△ 10	100
り ん ご	39,700	△ 400	99	う め	17,400	△ 300	98
日 本 な し	13,800	△ 400	97	ぶ ど う	18,600	△ 200	99
西 洋 な し	1,660	△ 20	99	く り	21,700	△ 400	98
か き	22,600	△ 400	98	パインアップル	515	△ 7	99
び わ	1,600	△ 50	97	キウイフルーツ	2,320	△ 50	98
も も	10,700	△ 100	99				

図 9 主要果樹の栽培面積の推移



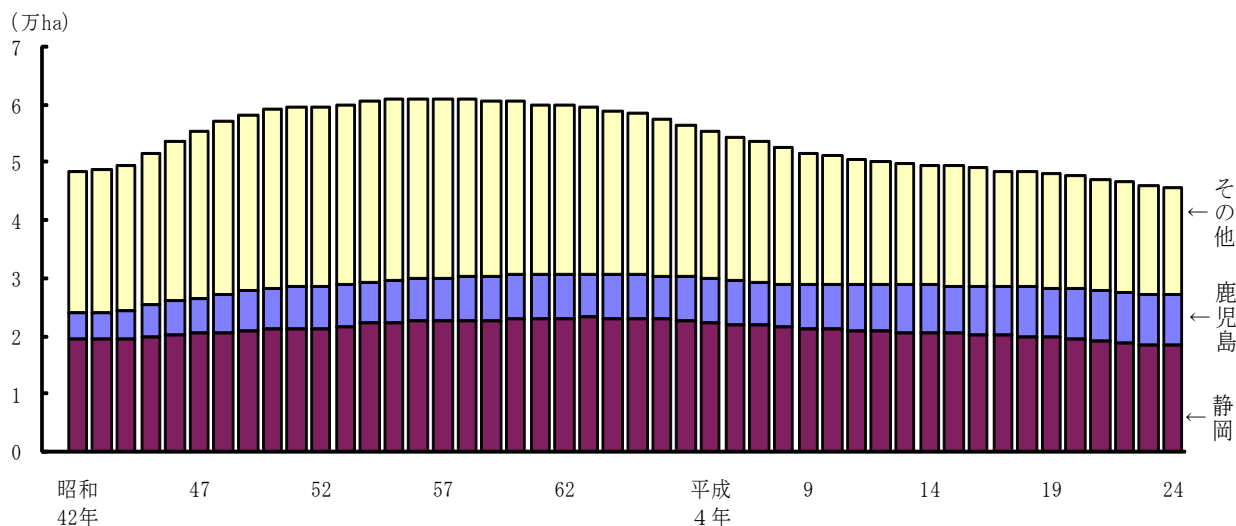
7 茶

平成24年茶の栽培面積は4万5,900haで、前年に比べて300ha（1%）減少した。

栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している。

なお、主産地である静岡県においても、近年全国と同様に漸減傾向で推移している。（図10）

図10 茶栽培面積の推移



8 飼肥料作物

(1) 飼肥料作物の作付(栽培)面積

平成24年産飼肥料作物の作付(栽培)面積は102万9,000haで、前年産並みとなった。

(表12)

(2) 飼料作物の作付(栽培)面積

平成24年産飼料作物の作付(栽培)面積は93万1,600haで、前年産並みとなった。(表12)

ア 牧草

牧草の作付(栽培)面積は75万800haで、前年産に比べて4,300ha（1%）減少した。

イ 青刈りとうもろこし

青刈りとうもろこしの作付面積は9万2,000haで、前年産並みとなった。

ウ ソルゴー

ソルゴーの作付面積は1万7,000haで、前年産に比べて600ha（3%）減少した。

これは、WCS（ホールクロップサイレージ）用稲（稲発酵粗飼料用稲）等への転換があったためである。

エ 青刈り麦類

青刈り麦類の作付面積は9,090haで、前年産に比べて390ha（4%）増加した。

オ その他青刈り作物

その他青刈り作物の作付面積は2万7,700haで、前年産に比べて2,800ha（11%）増加した。

これは、WCS用稲の作付けが増加したためである。

カ その他飼肥料作物

その他飼肥料作物の作付け（栽培）面積は3万5,000haで、前年産に比べて600ha（2%）増加した。

表12 平成24年産飼肥料作物作付(栽培)面積

区 分	計			飼料用		
	作付(栽培) 面積	前年産との比較		作付(栽培) 面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%
飼 肥 料 作 物 計	1,029,000	△ 1,000	100	931,600	△ 1,400	100
牧 草	760,600	△ 2,300	100	750,800	△ 4,300	99
青刈りとうもろこし	92,600	△ 100	100	92,000	△ 200	100
ソ ル ゴ ー	29,200	△ 1,200	96	17,000	△ 600	97
青 刈 り 麦 類	57,400	300	101	9,090	390	104
その他青刈り作物	29,300	2,500	109	27,700	2,800	111
れ ん げ	12,900	△ 600	96	59	18	144
その他飼肥料作物	46,700	600	101	35,000	600	102

図11 飼肥料作物作付(栽培)面積の推移

